

慶応二年五月二日より慶応二年五月四日まで

P8310589_right

欧行御手当残り四ヶ月分受取に三井より廻り越す、出 殿明日英ミニストル横浜にて面晤いたし度旨、小栗（上州）へ伝言申越す、此度宮城より抱屋敷讓受願書案文添え近藤元五郎方へ周助を使者に遣す、麻上下着用也、明後四日屋敷見分に相越旨也、両大に付須崎両人とも駕送りす、柏葉餅を製し礪川番町坂町へ遣わす旨、礪川よりも同品贈り来旨、岡本せき来り、ひらめ一尾持参し酬うるに坂地□急須遣わせし旨、両町隠居菓子持参、酒飯を（*）設く藤、女縁談の相談也、明（本）日横浜にて英、パークス引合差支え、同日午前新海□所へ参る趣申来るに付明日午前は此方差支え候間、明後日午前十時頃、同所へ出張可致旨返書申遣す
三日 西 雨午前より漸止、夕前薄晴
仏ミニストル御對話有之、朝第八時伯耆守殿御宅へ一同相待の処、彼方差支有之、午下三時参上

P8310589_left

と相成一旦出 殿右齋限前又相越す、泉防両州（和泉国、周防国）□□出雲殿御列席薄晩前
帰

宅礪川より菖蒲餅艸贈り来し旨、頼屋の者（水汲）屋上より誤りて落怪我せし趣に付、金田へ治療
治に遣す、柳齋稽古に来る、英ミニストル明日帰港いたすに付、金港へ同日出張の趣との義宿寺
詰並

本日引合に相越良助より申来る、仏カシオンより小栗上州、朝比奈甲州連名宛の書状甲州より廻達し来る（本日御對話次□□□也

四日 戌 晴

刀脇差拔注文の義に付長藏来る、小林喜初て来し面す（可見）、□端菖蒲を挟む、須崎村抱屋敷屋敷改見分有之に付、周助を遣す宮城よりも家来さし出屋敷改へ仕向け品双方申合を差出候積り
出

殿、藤沢叔母小品持参酒飯を（*）設く、山本次郎某志願筋申入に来る、寺山小君来り金子□会紹介申聞るに付程よく断り遣わす旨

*1設（ま）く、準備する。

（）内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。